EVENT REPORT

広大な練習場所と綿密な指導で大満足

スズキ北川ライディングスクール in 竜洋

開催日●6月28日（日）　場所●スズキ二輪技術センター内竜洋テストコース（静岡県磐田市）

report ●林 康平　photo ●編集部

メーカー主催のものも含め、ライディングスクールは数多い。そんななかでもこの「スズキ北川ライディングスクールin竜洋」の充実度の高さは際立っている。今回、実際に参加する機会を得て体験し、明確にそう思うことができた。

数々のスズキの名車を生み出した竜洋テストコースで、ロードレース世界耐久選手権チャンピオンの実績を持つ北川圭一氏をはじめとしたインストラクター陣の指導を受けられる。スズキファン、レースファンの心を強く揺さぶるフレーズを掲げてはいるが、ミーハーな欲求を満たすだけのイベントでは無論ない。

北川氏はカリキュラムの冒頭でスクールの趣旨についてこう語った。

「公道ではできない練習をとおしてバイクを全身で動かすことを学び、操る楽しさを知ってほしい。そして、身につけた技術を日ごろの安全のために役立ててください」。

広大なコース内の各所にスペース面での余裕を持ってセッティングされた各種カリキュラム。担当するグループの各人に目を配ってくれるインストラクター。アドバイスを受けながら練習をこなしていくうちに、自然と「積極的にバイクに働きかける」ことの重要性がわかってくる。スクールの終わりに「さらに上達したい」という思いを抱いた参加者はきっと多いはずだ。

革ツナギ着用で250cc以上のスズキ製マニュアルバイクに乗っていることなど参加条件ではあるものの、レンタルの革ツナギ・車両も用意されている。スズキ乗りでなくても、興味を持ったのなら次回9月13日（日）に開催されるスクールに参加することを強くお薦めする。

●今回は40名近くが参加。このスクールに参加するために前日入りしたという人もいた。参加車両はGSX-R系とハヤブサが大半を占め、整列した際の様子は壮観であった

●北川圭一氏以外のインストラクター陣も8耐経験者やテストライダー、ジムカーナ選手など、実力派の方々。練習前のデモ走行だけでなく、先導もスムーズかつ安全に行なってくれた

練習メニューもフルコース

●スラローム走行。狭路をスムーズに走っていくためには車体に積極的に入力する必要があり、なかなかハードな練習。しかし、バイクとの一体感を育めるので熱中するライダーも多い

●直線パイロンスラロームをアクセルワークやリヤブレーキを組み合わせつつ通過する練習。場所が広いのでパイロンが30本近く置かれており、1巡ごとにたっぷりと回数をこなすことができた

●フル加速からのフルブレーキを行ない、制動距離を把握する練習。ABS装着車はABSを作動させるくらい強くブレーキをかける。加減速時にかかるGに対応する体勢作りも同時に学ぶ

●8の字の練習。加減速はもちろん、どのタイミングでどこに視線を送るかも重要なので、インストラクターが逐次ポイントを指示。大回りになってしまっても路外には飛び出さないので安心

●ひときわ目立つ外観を持つこちらの車両は「アウトリガー」装着車。車体を倒し込んでも転倒しないようになっており、フルバンクしたときの感覚を体験するための練習用として使用する

●竜洋のテストコースを使っての高速走行練習で擬似サーキット体験ができる。スズキ車のふるさととも いえるコースの長大なバックストレートをアクセル全開で駆け抜ける際は、とても感慨深かった

●練習の合間には休憩が差し挟まれ、そのたびに無料でスポーツドリンクが配られる。これのおかげでノドの渇きや熱中症になる心配が解消され練習に集中できる。ありがたい心遣いだ

●11回目の参加という今枝親美さんの愛車はGSX-R1000。以前は愛車のパワーに振りまわされがちで乗るのを敬遠していたが、スクールで自己流ではないきちんとした乗り方を学び、乗るのが楽しくなったという

●田村耕二さんはGSF1200で参加。練習風景を見学して興味がわき、参加し始めたとのこと。クローズドコースならではの練習で成長でき、ツーリングの際も余裕で仲間についていけるようになったという

●中田昭典さんと志保さんはご夫婦での参加。昭典さんはハヤブサ、志保さんはグラディウス400が愛車。2人とも大のスズキファンで、この実践的なスクールを通して、スズキというメーカーへの信頼がさらに高まったという

●スクールのカリキュラム終了後には、ウエアなどを賞品としたじゃんけん大会が開催される。また、参加者全員に記念シールとタオルが配られるなど、おみやげ要素もばっちり

問い合わせ先●スズキ北川ライディングスクール事務局　電話：☎090-3928-6816　メール：info@k1-kitagawa.com
申し込み●北川圭一オフィシャルサイトにて　http://www.k1-kitagawa.com/